

イノシシの秘密

- ・「猪突猛進」のイメージとは逆に、じつは警戒心がとても強く、臆病。通り慣れたけもの道をたどって移動
- ・学習能力はサルなみ
- ・ジャンプ力は、助走なしで1mの高さを飛び越すほど。20cmの隙間があればくぐり抜ける
- ・鼻で押し上げる力は70kgの石を簡単に動かすほど
- ・年に1回繁殖、一度に4～5頭の子を産む



庭のヤマユリまで掘り返された

ここ栃木県足利市あしかがでも、イノシシの被害が増えている。山間部の畑ではまずサツマイモはつくれないといわれるほど。最近ではジャガイモの種イモやサトイモまで食われるほど。田んぼや畑以外でも、ゴルフ場では芝を荒らされて困っているという。被害がとくに増えたのはここ五、六年のことだ。

そこで、「有害獣駆除」のために捕獲されるイノシシが増え、足利市では昨年度はそれが三七二頭に上った。狩猟免許を持つことから有害獣駆除を頼まれる須永重夫さんは、このうち一二〇頭を捕獲している。須永さんは五年ほど前から、独自の工夫を凝らしたイノシシ捕獲用の箱檻はこわ(箱わな)を開発しており(法定猟具、特許も取得)、一

二〇頭ものイノシシを捕獲できたのはその成果でもある。足利市は関東平野の端、日光のほうから続く山脈の南端にある。市の中心部は渡良瀬川の両岸に広がる平地だが、車で一〇分も走ると山際に人家が連なる地区に入る。須永さんに案内された一軒、ちやま 杵山千鶴子さん(六二歳)の家で

は、昨年は庭に植えたヤマユリの球根まで掘り返されるほど、イノシシが身近に迫っていたという。

初山さんの家のすぐ裏が山だ。山の下には休耕田も何枚か並んでいて、その一部が「又タ場」になっているらしい。又タ場になるのは水が流れ込む泥田状のところ、イノシシはそこで泥浴び（又タ打ち）してダニを落としたりする。

昨年の秋、初山さんは須永さんに頼んで、家の裏手の山の三カ所に箱檻を仕掛けてもらった。そしてこの春までに、なんと二〇頭もイノシシが捕れた。

箱檻設置場所は 人家近くの薄暗いところ

須永さんによると、箱檻でイノシシを捕獲できるかどうかは八割がた設置場所が決まるという。

イノシシが好むのは、まず、前述のような又タ場になる休耕田などが近くにあるところ。しかしだからといって、耕作放棄された田んぼの真ん中に箱檻を置いてもイノシシは捕らえられない。ウメヤクリの樹な

イノシシ捕獲の 現場を見に行く

栃木県足利市
編集部

どが近くにあつて薄暗いところ。スギやヒノキの薄暗い山林なら、その中でも雑木や笹竹が茂ったような暗がりかピツタリの設置場所だ。イノシシはタケノコも好んで食べる。それに箱檻は、人家からあまり離れていないところに仕掛けるのがいい。イノシシが建物やプロック塀などを見慣れているところのそばなら、鉄でできた箱檻が置いてあつてもそれほど警戒しなくなるからだ。



須永さんの箱檻で捕獲されたイノシシ



山際にクリの木、その下に休耕田。こんなところを好んで、イノシシは里まで下りてくる



イノシシが泥浴びをしたヌタ場



昨年の秋からもう20頭もイノシシが獲れたよ、と初山さん

設置のしかたのコツ

場所が決まったら、地面を少し掘り下げてから設置する。地面が斜めになっているときは、箱檻が水平になるよう山側の斜面を削る。

また、須永さんの考案したイノシシ用の箱檻は両側（二方向）にトビラが付いているのが特徴だが、トビラのない長辺側を山の斜面の上下に向けるようにする。つまりイノシシが入りするトビラ側が等高線方向を向くように置くわけだ。

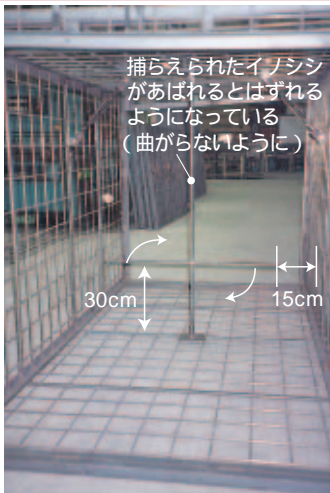
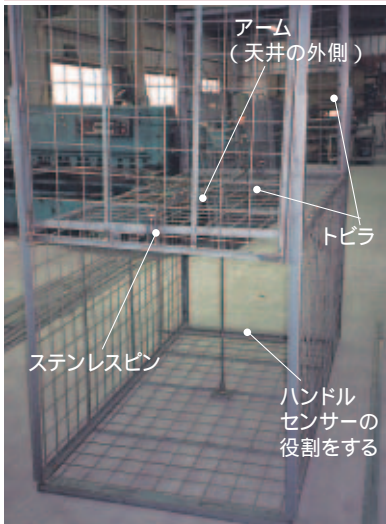
次に、底面の網が隠れるように5cmほど土を入れる。鉄棒や鉄板、木の板など、足が滑るところにはイノシシは入ろうとしない。「イノシシには、脚を折ったときに駆け込める接骨医がいないからだ」そうだ。ただし、ワラや木の葉で覆ったりはしないこと。木の葉が敷いてあったりすると、下に何か仕掛けがあるのではないかと警戒するらしい。イノシシは土が見えているほうが安心するのだ。

エサは米ヌカを主に、自然塩を一割混ぜて

イノシシを呼び込むために、箱檻の中にエサを置く。主には米ヌカで、小米や小麦、オカラ、サツマイモ、ジャガイモ、リンゴ、酒粕などを混ぜるといい。サツマイモやリ



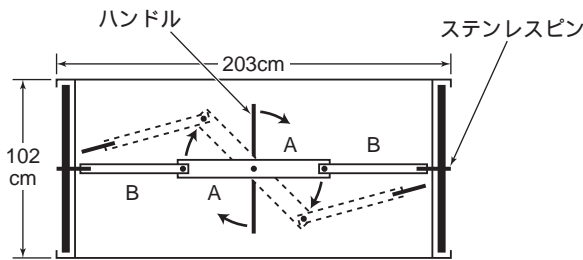
箱檻のしくみ



須永さん考案のイノシシ用の檻は1m×1m×2mの大きさ。両側が開いていること、奥行きが長すぎないこと(2m)で、警戒心の強いイノシシが入りやすくなるとのこと

イノシシがまたげず、くぐりにくい高さが30cm。イノシシは壁に沿って進むので、ハンドルの先と壁のあいだが15cmあいていることで、ヒゲが当たらないまま前へ進み、ハンドルを押しやすくなる

ノゴは小さく切って混ぜる。米ヌカは、炒ってから使ったほうが腐敗するのが遅くなる。
またイノシシは塩分もとりにたがるので、塩をエサの1割



ハンドルが回転するとアームが動きピンがはずれてドアが落ちる

くらいになるよう混ぜると効果的。ただし、食塩のような精製した塩よりはミネラルを含む自然の塩がいい。海外から輸入される「粉碎塩」などを使えば安くすむ。
エサが濡れないようにと、箱檻の上をビニールシートや段ボールで覆うのは逆効果。イノシシは警戒して中へ入らなくなる。とくに夏場はエサの腐敗が早い、それを取り除かずじょうろから足してやればよいという。腐敗したエサの中ではカブトムシの幼虫に似たような3cmくらいの虫がわくことがある、これがイノシシの大好物だからだ。

集落で一人、
狩猟免許を
持てないか

「狩猟」としてイノシシを捕獲できる期間は十一月十五日～二月十五日だが、市町村役場に届けて首長の許可を得れば、そのほかの時期でも「有害



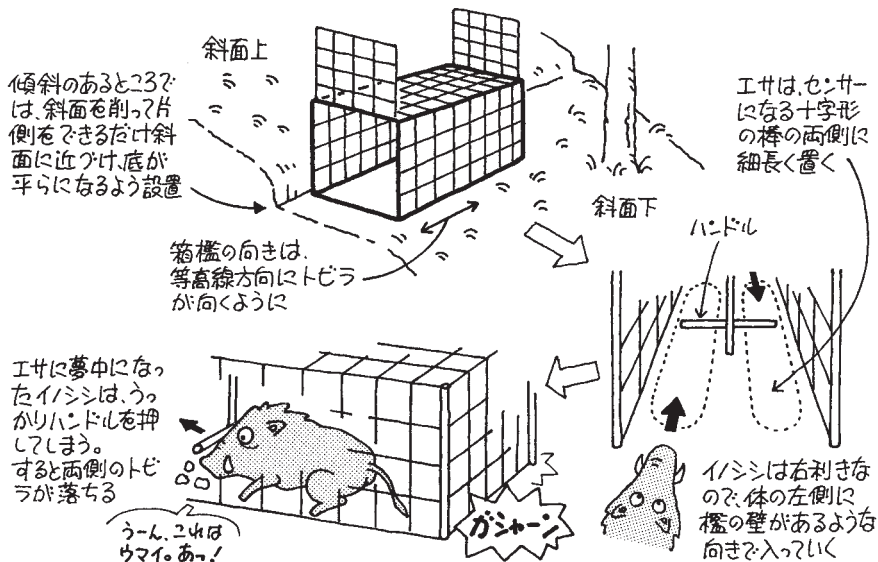
笹竹に囲まれた薄暗い場所は箱檻を設置するのに適している。白く見えるのがエサ。米ヌカを主にするのがいいが、なければドッグフードでもいい

獣」として捕獲できる。ただし、実際に捕獲する人には狩猟免許が必要だ。

これだけイノシシの被害が増えると、田んぼや畑を囲って作物を守るだけでなく、里に下りてくるイノシシを捕獲することも必要だろう。須永さんはそのために、集落ごとに一人でも二人でも狩猟免許を取ることを勧める。高齢者が多い山間部などでは、農協の職員が代わりに取得してはどうかという。

「網・わな猟免許」を取得すれば、箱檻や足くくりわなを

箱檻の設置のしかた



合わせて三〇力所まで設置できる。集落内に箱檻をいくつか設置できれば、イノシシの被害を減らすのに力を発揮するはずだ。

* 須永さん考案の箱檻についての問い合わせは、ワインセラ

「狩猟免許」を取るには…

和田三生

農家の生産物などに被害をもたらす動物を捕獲するのが「有害鳥獣駆除」です。イノシシのように増えすぎてしまった動物が被害をもたらす場合は、ある程度捕獲して頭数を減らすことが必要でしょう。市町村役場の農業振興課などの窓口で申請し、市町村長の許可を得て行ないます。

捕獲のためには猟具を使うことになるので狩猟免許が必要です。免許を取得できるのは二〇歳以上から。猟具の種類によって、「網・わな猟免許」「第一種狩猟免許」「散弾銃・ライフル銃・空気銃を用いるための免許」「第二種狩猟免許（空気銃を用いるための免許）があります（いずれも三年ごとに更新）。試験の内容は、鳥獣保護および狩猟に関する法令や、鳥獣や猟具についての知識を問う学科試験と、猟具の使い方についての実技試験です。



三生工機㈱では、日中はロックがかかったり、イノシシが捕獲されたときには携帯電話に知らせるような装置を備えた「足くくり罠」を販売

（三生工機㈱佐賀県鳥栖市鷹町九四二 TEL 〇九四二 八三 三七六）

1・スナガ（TEL 〇二八四 四一 二二七四）まで。イノシシの生態や被害の防ぎ方については、江口祐輔さんの『イノシシから田畑を守る』（農文協、一八五〇円）が参考になります。ご覧ください。

試験の日程は各都道府県によって異なりますが、六月頃から試験が行なわれます。受付窓口は、各都道府県の農林課や林務課など（都道府県によって違う）。試験前には講習会も開かれており、ここで親切・丁寧に指導してくれます。したがって合格率も高く、初心者でも安心して受けることができます。

鳥獣害は、本来は各市町村が対策をとるべきことですが、手続上の問題や予算の問題などがあり、すぐに実行されるとは限りません。現在は猟師が減っているので、農家が自分で被害を防ぐ手だてをとることも必要かもしれません。